

このポラリメーターは月の中心を通る走査線の場合、667地点の偏光度を測定することが可能であった。

#### 4. 結 果

天体望遠鏡による月面偏光度と実験室に於ける地球岩石の偏光度を比較してみると、よく一致する岩石は軽石(北海道樽前山産)であった。偏光度は2%と4%の間の値を示し、その後アポロ月船がもたらした月面は粉状であったという情報とよく一致する。測定地は主としてプラトール・クレーター内部、月令は10.2、月の視差55'であった。

光珠内隕石の偏光度は極めて大きな値、50%以上もあり、隕石そのものが月面に多数分布するかどうかは、このデータからは検証できなかった。

#### 5. 結 び

大塚奨励金によって、筆者は天体地質学研究的の一歩を

踏み出した。現在の研究は「隕石孔の研究」に全力をあげている。天と地を結ぶ世界の探究に微力を尽くしたいと考えている。

筆者が研究者として大学に籍を置くに至ったモメントが、この奨励制度にあったことを思えば、制度の創立者に対する学恩の深さを改めて痛感するのである。

さらに、この機会に、過去に於て御指導をいただいた東大・東京天文台測光部の諸先生と京大・花山天文台の諸先生に重ねて感謝の意を捧げるものである。最後に大塚奨励金による研究結果のリポートを列挙して結びとする。

- ☆ 月と地球の岩石の偏光度の比較研究 天界(第493号, 1966年3月)
- ☆ 月面のプラトール火口平原の偏光度に関する研究 学園論集(第10号, 1966年5月)
- ☆ 岩石と隕石表面反射光の偏光度について 天文月報(第50巻6号, 1966年6月)

### 日本学術会議第73回総会報告

日本学術会議第10期の最後に当る第73回総会は、10月26~28日の3日間開催された。冒頭、会長からオブザーバーとして出席された琉球大学杉浦正保健学部長、沖縄国際大学宮城辰男教授の紹介があった。

〔諸報告〕 について、前総会以降の会長経過報告、運営審議会付置小委員会報告、各部の経過報告、各委員会報告及び関連する若干の審議がなされた。このうち、中華人民共和国の国際測地学・地球物理学連合(IUGG)の構成国加入と台湾のもっていた代表権の取消しに関連して、かなりの質疑応答がなされた。

今回の総会は第10期の取りまとめの任務を負ったもので、全体のまとめの性質をもつ報告書「転換期の科学・技術科学・技術政策の基盤」と、各委員会から第10期の審議結果をまとめた報告書が提出された。

〔提案審議〕 今回は第10期最後の総会にふさわしく、提案が多方面にわたり、勧告4件、要望1件、申入れ3件、伝達1件、声明1件、申合せ2件が採択された。

「エネルギー工学研究所(仮称)の設立について」と「鉱物資源・エネルギーに関する研究センターの設計について」との2勧告は、第66回総会の勧告「資源・エネルギー関係の研究体制について」を具体化したものである。前者は原子力を除くエネルギーについて総合研究を行う国立大学共同利用研究所の設立を目指すものである。後者は鉱物資源とエネルギーに関して総合的研究開発政策の策定に寄与するための資料を作成することを主要任務とする、自然科学と社会科学にわたる総合的研究センターを設立しようとするものである。何れも運営の具体性などについて論議された後、賛成多数で採択された。

原子力特別委員会からは「原子力施設等の事故情報の

収集、整理、保存及び公表に関する体制の整備確立について」が提案された。最近原子力発電所などにおいて事故や故障が多発し、しかもそれに対して適切な措置がとられていないため、具体的には「原子力安全性情報センター」というべき機関の設立が参考案として例示されたが、多くの賛同を得て採択された。

「官公庁文書資料の保存について(要望)」は、官公庁文書の散逸・消滅を防いで学術資料としての利用を保障するための早急な措置を政府に求めるもので、中央集権的な体制が出ないように配慮すべきであるなどの活発な意見が出された後、賛成多数で採択された。このほか、ヨーロッパ系の諸言語の文献資料を用いる人文社会科学のための研究情報の流通・組織化の整備を目指す「ヨーロッパ語系人文社会研究情報センター(仮称)の設置について(勧告)」の提案があり採択された。

申入れは、(1)「医学教育制度の総合的運営及び体制の整備について」、(2)「東洋医学の研究教育体制の確立について」、(3)「障害児(者)の教育権保障のための総合的、一貫的体制の整備について」の3件であり、(1)は医学教育の所管が文部・厚生両省にまたがっている現状を改めて総合的な運営を図る医学教育審議会(仮称)を設けることを中心課題とするものである。(2)については審議のうえ修正された提案を更に活発に論議し、(3)については標題とこれに関連した文章の変更を行うことを条件として、共に採択した。

「原子力基本法等の一部改正法案に関する見解(伝達)」は、同法の改正に当たって安全性の軽視、開発優先に走ることをないよう警告を行ったものである。

「我が国のDNA分子組換え研究の進め方に関する日

本学術会議の見解(声明)は、遺伝子操作の研究をすすめるという基本的立場にたちながらも高度の潜在的危険性が予想されるので、当面は遺伝子操作指針の設定等を任務とする委員会を設け、研究者の自主規制によりその安全を確保する努力を重ねるべきであるとの見解を表明するものであり、真剣な討議の下でまとめられた。

このほか、第9期から引継いだ「科学者憲章」については、人間と科学特別委員会の今期における真剣な討議を基礎として、第11期以降の早い時期に制定されることを期待することとした。また地方区会議の強化を図るための「地方区会議の確立について」は、全国区選出の会員もこれに参加することに修正し採択した。

最後に「転換期の科学・技術政策」と「日本学術会議の改革構想」について自由討議を行った。(広報委員会)

◇ 2 月 の 天 文 暦 ◇

日 時	記 事
1 9	下 弦
4 13	立 春 (太陽黄経 315°)
6 6	月 最近
7 24	朔
15 7	上 弦
16 13	土 星 衝
18 3	月 最遠
19 9	雨 水 (太陽黄経 330°)
20 2	天王星 留
11	木 星 留
23 10	望
27 12	水 星 外合

賛 助 会 員 名 簿

(1978年1月5日現在の本会賛助会員は下記のとおりであります。ここに社名、代表者名を掲載させて頂いて感謝の意を表します。(五十音順))

旭光学工業株式会社	松 本 三 郎	谷村株式会社新興製作所	谷 村 昌 子
朝日新聞社科学部	木 村 繁	地 人 書 館	中 田 威 夫
アストロ光学工業株式会社	滝 沢 馨	天 文 博 物 館	
岩 波 書 店	岩波雄二郎	五島プラネタリウム	五 島 昇
宇宙開発事業団	島 秀 雄	東京電力株式会社	木 川 田 一 隆
沖電気工業株式会社	佐 藤 敦 之	東北電力株式会社	若 林 彊
近江屋写真用品株式会社	野 呂 幸 義	長瀬産業株式会社	
カールツアイス株式会社	波 木 泰 雄	コダック製品部	広 田 悟
河出書房新社	佐 藤 皓 三	ナ ル ミ 商 会	村 上 俊 男
関西電力株式会社	芦 原 義 重	日本光学工業株式会社	彌 永 恭 二 郎
関東電気工業株式会社	関 井 忠 夫	法 月 鉄 工 所	法 月 惣 次 郎
啓文堂松本印刷	松 本 喬	富士通株式会社システム統轄部	松 田 季 彦
恒星社厚生閣	志 賀 正 路	丸 善 株 式 会 社	飯 泉 新 吾
五藤光学研究所	五 藤 齊 三	三 鷹 光 器 株 式 会 社	神 田 和 勝
金光教本部教庁	金 光 鑑 太 郎	三 菱 電 機 株 式 会 社	
誠文堂新光社	小 川 茂 男	宇 宙 開 発 部	土 井 博 之
ソ ニ ー 株 式 会 社	岩 間 和 夫	ミノルタカメラ株式会社	田 嶋 一 雄

1977年11月の太陽黒点 (g, f) (東京天文台)

1	4, 32	6	2, 20	11	3, 13	16	—, —	21	4, 51	26	—, —
2	—, —	7	—, —	12	3, 14	17	—, —	22	4, 17	27	2, 2
3	3, 21	8	4, 13	13	—, —	18	7, 47	23	3, 22	28	1, 1
4	—, —	9	—, —	14	—, —	19	6, 43	24	2, 25	29	1, 1
5	3, 17	10	3, 6	15	4, 21	20	4, 42	25	2, 5	30	2, 8

(相対数月平均値: 37.4)

昭和53年1月20日	発 行 人	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
印刷発行	印 刷 所	〒112 東京都文京区水道2-7-5	啓文堂松本印刷
定価 300 円	発 行 所	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
		電話 武蔵野 31局 (0422-31) 1359	振替口座 東京 6-13592